

第9期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定に関する第2回懇話会議事録

1 日時

令和5年9月15日（金） 午後1時30分～午後2時40分

2 場所

酒田市民健康センター 大研修室

3 出席者

【酒田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定に関する懇話会委員 計15名 敬称略】

酒田地区医師会十全堂	◎酒井 朋久
酒田地区歯科医師会	茂木 健一
山形県看護協会庄内支部	市町 有紀
酒田地区薬剤師会	小松 ルミ
酒田市社会福祉協議会	○梅木 和広
酒田市介護サービス事業者連絡協議会	佐藤 美和
酒田飽海地区特別養護老人ホーム連絡協議会	村上 悦美
酒田市自治会連合会	小野 英男
酒田市平田自治会連合会	佐藤 賢一
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会	佐藤 善一
八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会	小松 久美子
酒田市老人クラブ連合会	西田 不二郎
酒田市地域包括支援センター	堀 由美子
一般公募	朝岡 剛
一般公募	阿曾 眞由美

◎会長、○副会長

【事務局（酒田市）】

健康福祉部長、地域医療調整監、高齢者支援課長、福祉企画課長、健康課長、
（以下高齢者支援課）課長補佐、課長補佐兼地域包括支援係長、課長補佐兼介護給付係長、
高齢者支援主査兼係長、介護認定係長、専門員

4 会議記録

○健康福祉部長あいさつ

開会に先立ちまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

酒田市高齢化率は36%を超えている状況にあり、山形市の高齢化率の10年先、全国平均の25年先以上の数値となっていることから、全国行われている対策等をそのままやっている状態では

く、もっと危機感を持ちながら先を見据えた対策を行っていく段階にきているという話を先日お聞きし、同感いたしました。

本市の 65 歳以上の高齢者は減少期に入っておりますが、75 歳以上の後期高齢者数はまだ増加傾向にあります。また、要介護認定者数も 75 歳以上は増加していくことから、今後の社会保障や介護に関するニーズは量的に増え、内容も多様化してくものと考えております。

今回策定する第 9 期計画は、そういうところも踏まえて考えていかなければいけないと思っておりますので、皆様方から忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○酒井会長あいさつ

まだまだ暑い日が続いており、当院の患者さんも「人生、こんな暑い時はなかった。」と口を揃えて言っています。酒田市からお話ありましたように、高齢化の状況から今後 10 年 20 年先ではなく、5 年先考えてもかなり厳しい状況になるという危機感を持って、皆様から忌憚なくご意見をいただきたいと思っております。本懇話会は意思決定機関ではありませんが、酒田市の第 9 期がよりよい計画となるよう、ご協力をお願いいたします。

[以下、事務局より資料に沿って説明。その後意見交換]

(1) 第 8 期計画の現状と課題について

(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

(3) 第 9 期計画基本指針について

(会長)

外国人の方々が施設で働くようになり、問題となっている点があれば教えてください。

(事務局)

現在、地域包括支援センターの見直しも含めて、各法人に出向いて意見を伺っております。外国人労働者を雇っているという話はお聞きしています、特に問題が起きているということは聞いておりません。

(会長)

私が担当している施設の方でも数人働いていますが、一生懸命働き、みんなで協力して頑張っており、問題があるという報告は受けておりません。

(委員)

介護職の魅力という話がありましたが、具体的に看護職の魅力とは何ですか。

(事務局)

本人にとっては、自力で食事や排泄など出来なかったことが出来るようになり、その人らしく生きること。介護する側としては、そういった人の役に立つことで喜んでもらえ、それが自分にはね返ってくるというところが魅力の一つと考えております。

(委員)

各施設で介護人材不足が大きな課題になっていると思います。私も長く老人ホームで働いてきましたが、苦しいことの方が多いうように思えて、介護職の魅力を具体的に伝えて次の人にバトン

タッチできませんでした。職員個人は仕事の達成感とかやりがいがあっても、それを皆が同じように共有できるかといえば必ずしもできないし、試しに働いてみますかって言ったら拒否されることの方が多いと思います。

どうしたら魅力的に感じられるか、それを発信していくのはすごく難しいと思います。これからますます介護人材不足は大きな課題になると思うので、具体的に介護職の魅力アピールできるような方法を考えていただけたらと思います。

(事務局)

市単独で努力しても難しいと思いますので、国や県も含めて、実際働いていらっしゃる方の協力や情報を教えていただきながら、皆さんに伝える努力をして参りたいと思います。

(健康福祉部長)

まさしくその通りだと思っております。現実的な問題として人材が不足している業務として、介護だけではなく、保育現場や病院の看護師や医師を含めて、この地域において不足している原因は何か、どう対応していくのか考えていく必要があると思います。今まで通りの考え方、対策では解決できない課題をどう解決できるか、ぜひ皆様からご意見やアドバイスを頂戴しながら検討してまいります。

(委員)

コロナ感染拡大以降、介護施設でボランティアの受け入れや家族との面会が出来ず、施設側にとっても支障があったのではと懸念しています。5類に移行し、どのような状況になっているかお聞きします。

(会長)

介護現場関係者の方、状況をお聞かせください。

(委員)

私が働いている特別養護老人ホームでは、面会は施設内の1ヶ所でガラス越し面会や、オンライン面会を行っています。面会時は、健康状況や県外への外出などの状況を確認するなどの対応を取っている状況にあります。この3年間、全くご家族とお会いしていない利用者様もおりますが、定期的に施設内での行事写真を送るなどの取り組みも行っています。なお、ボランティアは現在も受け入れておりません。

(会長)

補足しますと、各施設で指針が違いますので、進んでいる施設もあると思われます。ボランティアや避難訓練、消防隊、小中学校との交流なども、少しずつ始まっていくはずですが。国は5類になったからインフルエンザと同じ扱いでよいと言っても、中にはどうしていいかわからない方もいらっしゃる状況だと思いますが、でも少しずつ進んでいくと思われます。

(委員)

先ほどの介護職の魅力について、山形県労働センターで介護の裾野を広げることを目的とした研修会が行われ、施設側から魅力を発信できる場があり、庄内地区では約13名の方々が参加しておりました。そのような研修を通して、介護職員から介護技術を学び、楽しく利用者と関わりながら仕事している事をお伝える機会になるのではと感じました。

(4) 第9期計画施設整備(案)について

(委員)

津波浸水区域にある現施設などの、移転整備計画はありますか。

(事務局)

各法人の移転計画については、言及できるものではありませんが、床数が増えない場合は、本計画に影響しないものと考えております。

(委員)

建替費用の補助金が発生する場合もあると思われまますので、移転の情報はあるのかお聞きします。

(健康福祉部長)

移転の意向はお聞きしておりますが、それに伴う酒田市への補助金は、現時点では要請されておりませんし、検討もしていない状況です。事業者さんとしては、国の補助金などの獲得に向けて検討していると聞いておりますが、具体的な相談には至っていない状況です。

(5) 日常生活圏域（案）について

(委員)

中学校区に合わせて7圏域とするのは良いと思います。浜田と泉学区は2つの中学校区に分かれており、アンケートでも1つの中学校区にはまとまらないので、コミュニティ単位ごとに7圏域に収めていただき嬉しく思います。

(事務局)

最小単位として、コミュニティ振興会分けるべきではないという考えでございます。

(委員)

7圏域とした場合のデメリットもあるのではと思っております。地域住民にとっては、社会資源や福祉サービスの地域格差が無いことが一番だと思います。

認知症施策について、認知症に対する理解は地域住民に進んできつつありますが、例えばデイサービス利用者が、夕方に地域の方に会いたいと思って歩いていると「認知症の方が出歩いている。」という声が聞こえてきます。認知症や障害があっても、住みやすい暮らしやすい地域ということを様々な会議で話をしていますが、自分や家族がそのような状況にならないと、地域包括支援センターの存在や認知症の理解や対応も広まっていけないと思います。

酒田市の方から、認知症や健康づくりを各地域全体で頑張ろうと発信していただき、自分事として市民全体が取り組み、健康づくりを自分からアピールできるような地域になればと思います。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございます。以前は「呆けた」「ほろけた」という言葉だったのが、認知症という言葉で一つの社会現象として確実に広まっています。認知症を正しく理解して社会で支え、さらに進めて欲しいという意見と理解いたします。酒田市の方でも、市民に対して正しい知識を分かりやすく広めていただきたいと思います。

以上